ミステリー・エグザミナー

1924年12月22日クリスマス特別号

両親は身代金を準備
警察の捜査行き詰まる
捜査は絶望的

ウィリアム・ハーバート編集長

「娘を取り戻すためなら何でもする！　誘拐犯は身代金の額を連絡してくれ！　娘のためなら、すべてを投げ出す覚悟だ」心労をあらわにしたジョージ・ソーンダース氏は本誌記者にそう語った。『死の紋章』『40人の盗賊』などのヒット作を作ったことで名高い、このプロデューサーも、いまや失意の人と化し、姿を消した娘の消息につながる手掛かりを求めて絶望的な捜索を続けている。電話のそばで持ち続けているのは、彼と彼の前妻で銀幕の輝けるスター、ジョゼット・ジャギュアである（これで２人のよりがもどるのか？）。２人は印のついていない20ドル札が詰まったケースをにぎりしめ、電話の鳴るのをじっと待っている。誘拐犯は電話してくるのか？　犯人たちはどこに潜んでいるのか？　何者なのか？　これらの質問に、職務に忠実なハリウッド警察警部フランシス・X・オバノンは、何も答えられなかった。警察は、ハリウッド中をしらみつぶしにして、手掛かりを探している。

目撃者たちの証言によれば、事件のあらましはこうだ。昨日の朝11時30分頃、乳母のヒルダ・ペニコートに付き添われて、８歳になる少女グレース・ソーンダースは名門女学校パシフィック・アカデミーから下校しようとしていた。その時カリフォルニアのナンバープレートをつけた茶色のリムジンが２人の横に止まった。黒いコートをはおり帽子をかぶった男が車から飛び降りると、幼い女相続人に襲いかかった。ペニコート女史は、男を追い払おうとした。目撃者の話によると、リムジンの後部席には黒い服に身を包んだ得体のしれない女が座っていたそうだ。その女がひとにらみすると、ペニコートは歩道に倒れ伏してしまった、いたいけな少女を悪魔の前に残したまま。グレースを車に押し込むと、車は走り去った。

８時間後、海岸の浅瀬になかば沈んでいる逃走車が発見された。車は徹底的に調べられたが、発見された手掛かりはたった１つ……グレースの教科書だけだった。他には何も見つからず、聞き込みの成果も上がっていない。警察の捜査は完全に行き詰まった。しかめつらをしたブリッグス警部補は、めずらしく虚心坦懐に本紙記者に語った。「普通は誘拐直後に身代金の要求があるもんだ。なのにまだ何も言ってこない。血に飢えた殺人鬼を相手にしているんでなきゃいいが」警部補の話では、何かはっきりした証拠が発見されるまで、捜査は継続されるということだ。

この凶悪な犯罪は人々の憤激を呼び、ハリウッド警察の捜査の不備に対する非難がわき起こっている。ついさっき入った知らせでは、希望がほとんどないことを悲観したグレースの母親が自殺をはかったそうだ。ジョージ・ソーンダースは捜査を手助けしてくれる私立探偵を雇うことを発表した。映画界の大立者は、涙を流しながら言った「私は最高の私立探偵を雇うつもりだ。グレースはきっと見つかる！」

銀幕裏話(SILVER SCREEN TATTLE)

ハーイ、みなさん。12月号の銀幕裏話のコーナーへようこそ。虚飾の街にはおいしいゴシップが飛びかっているわよ。さあ、いってみよう。

ラシュモア・スタジオはごく最近、スウェーデン出身の銀幕の妖精ジェルダ・グラボと契約したわ。この契約によって、ジェルダは今後5年間に20本のラシュモア・スタジオ作品に出演することになるの。最初の映画となる『上海の計略』は、来週クランク・インする予定よ。ジェルダはプライバシーが確保されていないとかんしゃくを起こすから、ロケ地は秘密にされているんですって。相手役のロナルド・リクタスは、もう二度と彼女と仕事をする気はないと宣言していたはずよね。信頼できる筋によれば、ジェルダは彼の耳をかみ切ろうとしたんだそうよ。

ハリウッドでは一流のプロデューサーとされているフリッツ・グリムは、有名なギャングのヴィトー・カルボネットと昼食を共にして、いったい何を話し合ったんでしょうね？　2人は、リストランテ・デラ・ヴェガでスパゲティとワインを前に話し合っているところを目撃されたんですって。街のスズメが言うところでは、ヴィトは愛する父、ジュゼッペ・喉裂き・カルボネットの実録映画を撮ってもらいたがっていたんだそうよ。

ジェリー・コンウェイは、不安ながらも待たれていたギャング＝ミュージカルの撮影を開始したそうよ。『死人は踊れない』は人気スターのノーマ・ベイツを主役に据える予定で書かれたもの。ノーマの人気が配役をもぎとるテクニックにかかっていることは、よく知られているわよね。この歌と踊りの大スペクタクル映画を振付けるのは、ハリウッドへ来たばかりのミスター・アイ。ちまたの噂では、『死人は踊れない』が公開されたらすぐに、ミスター・アイの名は鳴り響くだろうですって。

では、次回までさようなら。ルル・パースニップからあなたに、シャンペンのキスを！

デルセト屋敷の逆襲

ハリー・マグラダー　（現地記者）

3年にわたる偽りの平和のあと、ルイジアナの奥深くに建つ不吉な屋敷デルセトがまたもや国じゅうの注目を集めることとなった。かつてこの屋敷には亡霊が住みついていて、住人の気を狂わせ、凶悪な殺人や自殺を引き起こさせたのだと伝えられている。その身の毛もよだつ事件を解決するために呼ばれたのは、超常現象探偵として有名な名探偵エドワード・カーンビィだった。

最近になって、デルセト屋敷は著名な建築家のフランク・ストライドとその父親によって買い取られた。ストライドはこのところスランプに陥っていた。最新プロジェクトである太古のカルト神『グレート・パン』を祀る大聖堂の建設が、上院において満場一致で否決されたからだ。追い撃ちをかけるように、当地に在住するジェゼベル・イベンツァーが、デルセトの地所で目撃されたのを最後に消息を断つという事件が起こった。

イベンツァーの姿が最後に見かけられたのは、デルセト屋敷の湿地でハタネズミ狩りをしているところだった。集中的な聞き込みと捜査が行なわれたにもかかわらず、なんの糸口も見つからなかった。ウェブ郡のミッチ・ミッチェル保安官は次のように語った。

「あの女は自分の中に閉じ籠もりがちな女だったよ、おわかりかな？　友達も家族もいなかった。ここいらの人間ならたいてい、あの女が奇妙な力を備えていたのを知っている。ちょうど、魔女か何かみたいな力だ。俺はそんなこと信じちゃいないが、附近の連中はあの女を避けていたようだな」

不精ひげを生やしたミッチェルは、さらに続けて言った。

「あの女はデルセト屋敷に入ったとにらんじゃいるが、証拠はいっさいない。俺は探偵のカーンビィに電話をかけた。彼は言ったよ、女を探しにあの屋敷に入るなんてバカもいいところだってな。だが、男ってのは、やる時はやらにゃならんのだ。都会もんにあれこれ言われたくないね」

〈2ページ下の広告〉

キャルウェル・リポート

ジェイムズ・W・キャルウェル

先日、サンタモニカ・アヴェニューのサンセット・インは、スティール大佐の高価なアンティークの武器類を売るためのオークション・ハウスとなった。入札に参加すべく輝くスターたちや富豪たちが何十人と集まり、サンセット・インは修羅場となった。
ほとんどが16世紀までルーツをさかのぼれ、しかも完璧な保存状態の武器は、どれも何千ドルもの値段がつけられた。歯車式撃発装置式のオランダ製ピストルひと組に、最高値がつけられた。スクリーンのアイドル、ダグラス・フェアショーが熱心に競り合ったが、結局はミスター・アイという名もないコレクターのものとなった。この不思議な人物ミスター・アイは、仲間たちといっしょに他にもたくさんの買い物をした。彼らには、金など問題ではないようだった。新しいコレクションについてコメントを求められたミスター・アイは、こう語った。「私はアンティークの武器に魅せられているんです。そのすばらしい品々の気高さと美しさに打たれて、ここアメリカで私のコレクションに加えようと思ったのです。」

最新情報

ロサンゼルス警察は、ついにグリフィス公園の殺人鬼を追い詰め、逮捕した。ギルバート・トレントンという名の狂った犯罪者の手に、ついに手錠がかけられたのだ。犯人は、救世軍の合唱団に向けて銃を乱射するという最新の犯行の直後に、逮捕されたものである。
「やつらがつけてくる！」見物人によって地面に抑えつけられるあいだも、トレントンはヒステリックにそう叫び続けた。犯人の血にまみれた犯罪について事情を聞くため、警察は犯人の妻を探したが、彼女はどこにも見つからなかった。証拠の品を求めて家を捜索するうち、トレントン夫人の死体は地下室に置かれた24個の箱の中に、ばらばらになった状態で発見された。

失踪後７日が過ぎたが、老石油王ジャック・ターンブルの消息は杳として知れない。ブロンド美人のドロシー・マローン（55歳年下）と結婚したばかりのジャックは、常に紙面をにぎわわせていた。ターンブル氏と最後に会ったのは友人のフィル・ストーン氏だった。「ターンブル氏は、年はとっているけれど、毎日運動を欠かさなかった」毎日いっしょに水泳を楽しんでいたストーク氏はそう語った。あとに遺された未亡人は語った。「フィルは私の悲しみをいやしてくれました。ほんとに、彼がいなければどうなっていかことか」昨夜、２人はチャールストンの会員制クラブ、〈コパカバーナ・クラブ〉のオープニングにすっ飛んでいった。

ビューアガード・ブロウアー上院議員の裁判は、日がたつにつれ面白くなってきた。地方検事補のボブ・ヒンメルは、大喜びで上院議員の裁判を担当している。「ブロウアーは、遅かれ早かれ８つの州に住む６人の妻について説明をせねばならない！」午後の記者会見で彼はそう語った。上院議員は、最初悪夢にとりつかれていることを理由に、セットン悔罪所に閉じ籠もっている。警察が彼の残りの15人の妻たちの居場所を探しているあいだ、精神病理学者たちがこのケースを調査している。

写真

上院議員と妻と友人

〈3ページ左下の広告〉

パーカー大佐と金儲け

数えきれないほど
お金を儲けたいと
思いませんか？

大好評のパーカー大佐の本、
「投資家のバイブル」であなたは、
財産家への一歩を踏み出すことができる。
金持ちになる心構えができたなら、
私書箱13号あてに１ドル98セントを送られたし。
折り返し、この貴重な本を送る。
さあ、一刻も無駄になさらぬよう！

資産獲得の秘訣をあなたに！

パーカー大佐がお約束します！

１ドル98セントぽっきり

〈3ページ右上の広告〉

ヒューバータス
ローション

使用前　　　使用後

ブルーマー博士の奇跡の薬をお試しください！
わが目を疑うことでしょう！　たったの３ドルで、
家から出ることなく、ふさふさの髪を手に入れられるのです！
予期せぬ副作用については保障いたしかねます。

ウォーゾースキーーウィズク引退す

この月曜日のこと、警察署長のウォーゾースキー・ウィズクは、市に忠誠をつくした30年にわたる激務に対し、心のこもった式典を開いて栄誉を称えられた。引退した署長は、職を離れるにあたって心に残る演説をし、あとを継ぐ者の幸運を祈った。

引退式のすぐあと、新しく赴任したホールウッド警視が署長に就任した。彼の直截かつ的をえた演説によって、彼が第4分署をしっかりした組織にまとめ上げようとしていることがうかがえた。市長と一団の人々を前にして彼は、「街をもう一度安全で住みよい場所にしたいのです。通りにのさばっているギャングやごろつきどもは、もう犯罪が割に合わなくなったということを思い知るでしょう！」と演説した。街から悪を一掃するというホールウッドの計画は、彼が演壇を降りたその瞬間から始まった。

予定表の第1ページは、警察機構そのものの再評価だった。それには厳格な運動能力検査や精神分析、そしてペーパーテストも含まれていた。あくる日には警官の4分の1が免職されていた。ホールウッドは欠員を埋めるため、警察学校を卒業したばかりの優秀な警官を採用した。

さらに次の日には、ホールウッドは一掃作戦を展開し始め、一新したばかりの警察力を街に放った。カルヴァー・シティ地区をパトロールするあいだに、彼はチンピラの一団が市場に押し入っている現場に出くわした。強盗たちが現場から逃げ出すさい、近くの住民めがけて銃弾を放った。通りがかりの者も含めて、大勢が銃弾で倒された。ガソリンを積んだトラックに十字砲火が命中し、トラックは大爆発を起こして、かなりの火事の被害を出した。奇跡的なことだが、犯罪者の一部は待ち構えていた赤い車で逃げ出した。ホールウッドは烈火のごとくあとを追った。

追跡劇は、曲がりくねった通りや込み合った表通りを抜けて、何マイルにもわたって続いた。犯罪者たちはねぐらに向かっているようだった。ホールウッドはそこにたくさんの警官を派遣し、待ち伏せさせていたのだ。そんなこととは知らぬチンピラどもに向けて、隠れていた警官たちが銃撃を開始するや、凄惨な場面が展開された。地域住民はしかし、飛び散った内蔵などは無視し、ホールウッドの勝利を祝うために通りに出て踊り狂ったのだった。

犯罪シンジケートを捜索するなかで、何人かの名を伏せられた公務員が賄賂を受け取った罪によって逮捕された。不特定情報源によれば、ホールウッドは次の目標として消防署長のミッチェル・オマリーを狙っているという話だ。噂では、オマリーは消防署長のほかに密造酒の醸造所を営んでいるうえ、犯罪組織と秘密のつながりがあるという。

「どんなことがあろうとも、私はこの街から犯罪を一掃する。」ホールウッドは強調した。「われわれの正義の街にのさばる悪党どもは、正義の前に引き出されることだろう！　もう法律から逃れることはできないのだ！」

写真

警官が到着する数分前の第4街区

小説

海の暴れん坊

第2章　トレヴィス船長

大砲の弾が〈ヴァルチャー〉号の後甲板で炸裂し、木の破片とまっ黒な煙をあたりにまきちらした。バーンズ甲板員は飛んできた破片を喉に受けて、ゴボゴボと血を吹き出しながらくずおれた。即死した彼の身体は、下で繰り広げられている地獄の戦いのどまんなかに落ちた。〈シャーク〉号が衝角で激突するたびに、〈ヴァルチャー〉号は身震いした。海賊船の雑多な船員たちは、叫び声を上げながら獲物の船に乗り移った。前に立ちはだかる者はすべて血祭りに上げるつもりだった。〈ヴァルチャー〉号の乗組員の希望がすべて失われたと見たジョーダン船長は、死の陰がすぐそばに忍び寄るのを感じた。ピストルに手を伸ばしたジョーダンは、自分の名誉と船の名を守るため、戦って死ぬ覚悟を決めた。その時プレグスト船長が自分に向かってサーベルを振るのが見えた。沈みつつある〈ヴァルチャー〉号に乗り移ったプレグスト船長は、ジョーダンを見つけるまでに10人の部下を血祭りにあげてきたのだった。
「ついに時はきたぞ、この臆病者めが」と、プレグスト船長はどなった。「さあこい、きさまの死体からはらわたをえぐり取ってやる！」
ジョーダンは裂けた帆布の後ろから、愛用の短剣を振りかざして突進したが、あと3センチほどのところでプレグストをしそんじた。
「これでもくらえ、ドブネズミめっ！」
そうなじると、くるりと向きを変え、もう一度突きを入れた。プレグストは顔を横にひねったが、頬にジョーダンの切っ先を受けた。開いた傷口から血がどっとあふれ、プレグストを激怒した。
「死が早く訪れるよう祈るんだな！」
プレグストは電光石火の早技でジョーダンに飛びかかった。2人はサメが群がる下の海面に向けて落ちていった。

続く

ページ下の広告

リトル・シップ

おもちゃはわが生命

貴重かつ特殊なおもちゃの専門店〈リトル・ショップ〉が、一般の方に門戸を開きました。わがすばらしいお人形はあらゆる女の子が夢見る品。見事な木馬はすべての男の子のあこがれの的です。さらに、世界最高のアンティークの大理石彫刻のコレクションもご提供いたします。楽しいゲームの宝庫を一見なされば、目をお疑いになることでしょう……一度ご来店くだされば、帰りたくなくなることうけあいです。

すべての道はリトル・ショップに通じる……「おもちゃはわが生命」